

# 第5回「弘前市のまちづくりを考えよう」 市民会議(ワークショップ)の進め方

## 1 第5回ワークショップの目的

◆第4回ワークショップで議論した、弘前市の20年後の将来都市像(案)に向けて「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」に基づき、「市民委員による具体的な取組・目標」について洗い出す。

## 2 本日のプログラム

タイムテーブル (予定)	内 容	備考
13時30分 ～13時35分	開会 1 はじめに (1) 配布資料の確認 (2) 本日のプログラム	事務局からご説明します
13時35分 ～13時40分	2 ワークショップの進め方について (1) ワークショップの進め方	
13時40分 ～15時10分	<グループごとの検討> 3 ワークショップによる検討 (1) 第4回ワークショップで議論した「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」の確認 (2) 市民による具体的な取組・目標の洗い出し (3) 出された意見のとりまとめ	議論の進行状況により適宜ご休憩下さい
15時10分 ～15時30分	<全体会議> 4 本日の検討結果の振り返り (1) 本日の検討結果の発表(各3分以内) (2) 次回の日程とテーマの説明	発表者は各グループの話合いで決定します
15時30分	閉会	

## 3 検討テーマ

それぞれのテーマ毎に、第4回ワークショップでの議論をふまえ、「市民委員による具体的な取組・目標」について検討いただきます。

### <検討テーマ等>

検討テーマ	主な論点
ひとづくり	「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」に関する「市民委員による具体的な取組・目標」は何か
くらしづくり	
なりわいづくり	
まちづくり	

## 4 第4回目のワークショップの具体的な進め方

※4つのグループに分かれて検討を行います。

### 1) 第4回ワークショップの振り返りを行います

【目安の時間：10分程度】

- 第4回のワークショップで出た意見を、グループのメンバーで改めて確認・共有します。



### 1) 第4回ワークショップで議論した、弘前市の20年後の将来都市像（案）に向けて「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」に基づき、「市民委員による具体的な取組・目標」を検討します。

【目安の時間：40分程度】

- 一人ずつ順番に、事前にワークシートに書き出した取組・目標を発表し合い、（テーマごとにシートを切り離してから）模造紙上に貼り出します。
- 事前に記入し忘れた方は、この時間を使ってシートに記入して下さい

#### <書くときのポイント>

- ・「自分」あるいは「自分の所属している組織」を主語として書いて下さい。
- ・「ご自身の身の周りで具体的に課題となっていること」、「これからやってみたいこと」、「所属されている組織等でできること」などを参考に書いてみて下さい。
- ・20年を意識しつつ、今後4年間で取り組むことをイメージしてお書き下さい

第5回市民会議(ワークショップ) 用ワークシート

市民委員による具体的な取組・目標

検討テーマ： ひとづくり 暮らしづくり なりわいづくり まちづくり  
※いずれか1つに○印をつけてください

①市民が協力して目指すべきまちの姿

\_\_\_\_\_

②ご自身(または所属する組織等)の取組・目標

私は、\_\_\_\_\_

③連携先・協力者の役割など

\_\_\_\_\_

<氏名> \_\_\_\_\_  
( )

ワークシートは事前にお書き頂き、当日持参下さい

【参考：記入例】

例1

①市民が協力して目指すべきまちの姿

多数の市民が地域づくりやコミュニティ活動に参加している

②ご自身（または所属する組織等）の取組・目標

私は、地域づくりの市民勉強会を開催・参加します！

③連携先・協力者の役割など

活発に活動している先進的な地域・・・地域づくりやリーダー育成のノウハウなどを、開催する勉強会で発表してもらおう

例2

①市民が協力して目指すべきまちの姿

弘前の持つ魅力が国内外の人々に周知されている

②ご自身（または所属する組織等）の取組・目標

私は、隠れた名産品やあまり知られていない弘前の魅力などを youtube や facebook で発信します！

③連携先・協力者の役割など

同じように他の市民の方々にも少しずつ弘前の魅力を発信してもらおう

2) 発表された意見を確認しとりまとめます

【目安の時間：40分程度】

- 模造紙を見ながら、意見の分類や似た意見等を確認し合います。

<とりまとめのポイント>

- 実際のプロジェクトとして展開することを意識して、各取り組みの内容を可能な範囲で具体化して下さい。



3) 本日の検討結果を振り返ります

【目安の時間：20分程度】

- 各グループの検討結果を報告し合い、参加メンバー全員で本日の検討結果を共有します。

以上、本日の予定

## 5 円滑な運営に向けた基本ルール

参加メンバーの活発な議論を促し、より実りの多い会議とするための基本ルールを、次のように定めます。これらのルールを守っていただき、有意義な話し合いを進めてまいりたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

### \*\*\* 円滑な運営に向けた会議の基本ルール \*\*\*

- ①メンバー全員が対等な立場にあり、自由な発言を行うことを尊重しましょう。
- ②各メンバーの発言を尊重し、はじめから否定することのないよう配慮しましょう。  
また、メンバーの話しを遮るような発言は慎み、円滑な会議進行に努めましょう。
- ③限られた時間の中、各メンバーができるだけ多く発言できるよう、発言時間が長くないよう配慮しましょう。
- ④特定の個人や団体などのひぼう中傷につながる発言はやめましょう。
- ⑤全体を見渡した視点から議論を行い、特定の地域や団体などの個別利益を優先する立場に陥らないようにしましょう。
- ⑥意見が対立した場合、問題の所在などを明らかにした上、合意形成に向けてお互いに歩み寄りましょう。
- ⑦いったん合意した内容は尊重し、議論を前に進めましょう。
- ⑧会議の内容の取扱いについては、十分に注意しましょう。(ブログへの不適切な書き込みなど)
- ⑨個人情報については、保護の重要性を十分認識し、メンバーの利益を害することのないよう努めましょう。

# 第5回市民ワークショップ 事前準備用ワークシートの書き方

第5回ワークショップでは、弘前市の20年後の将来都市像（案）に向けて「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」に基づき、「市民委員による具体的な取組・目標」を検討します。

限りある時間の中で中身の濃い話し合いを行うため、メンバーの皆さまには事前に検討用のワークシートを作成していただき、当日は各自のワークシートを発表しあった後、グループとしてとりまとめます。

事前準備用ワークシートは、以下の記入イメージを参考として、テーマ毎に取組・目標を記述し、当日持参してください。

※どうしても用紙が不足した場合は、適宜、各自でコピーしていただいて構いません。

## 【事前準備用ワークシートの記入イメージ】

所属グループに○印を  
つけます

**第5回市民会議(ワークショップ) 用紙**

**市民委員による具体的な取組・目標**

検討テーマ: ひとづくり 暮らしづくり なりわいづくり まちづくり

※いずれか1つに○印をつけてください

**①市民が協力して目指すべきまちの姿**

第4回のワークショップで検討した「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」を参考に、市民が協力してどんなまちの姿を目指すべきかを書いて下さい

①市民が協力して目指すべきまちの姿

**多数の市民が地域づくりやコミュニティ活動に参加している**

---

②ご自身(または所属する組織等)の取組・目標

私は、**地域づくりの市民勉強会を開催・参加します**

---

③連携先・協力者の役割など

**活発に活動している先進的な地域・・・地域づくりやリーダー育成のノウハウなどを、開催する勉強会で発表してもらう**

---

< 氏名 >

( )

**②ご自身(または所属する組織等)の取組・目標**

①で掲げためざすべきまちの姿の実現に向けて、ご自身が貢献できること、取り組んでいきたいと考えていることなどの目標をお書き下さい

**③連携先・協力者の役割など**

②の取り組みを行なうにあたって、他団体や行政などに連携・協力してほしいことや、担ってほしい役割などをお書き下さい

**第4回市民会議(ワークショップ) とりまとめシート**  
**市民、地域、民間事業者等が主体となって取り組むべきこと・課題**

**「ひとづくり」グループ**

**【幼・保～小・中～高・大学 ⇒一貫した教育】**

- 一貫性のある教育の実現（特に就学前）
  - ・保育園でも「教育」の観点が必要（各園で個別に対応するのではなく、一貫性を持って）
- 教育機関同士の連携
- 教育委員会・子育て支援課の統合
  - ・現場どうし、行政の部局どうしの連携
- “三つ子の魂百まで” 幼・保→小・中→高校・高等教育の連携
  - ・キャリア教育 →収入、安定した生活につながる
- 市民が主体となって取り組むべきこと・課題

**【大学の活用】**

- 大学の活用（企業との連携や子どもの体験の場をつくる）
  - ・同好会サークルの結成（大学）
  - ・先生を動かす
  - ・学生の活動の場づくり（企業側の受け入れ）、インターン等に関する情報提供が欲しい
- 「餅は餅屋」的に 一人ひとり、社会人（弘前人）としての価値を学ぶ、教える場をつくる
- 学園都市である強みを活かし、小・中・高・大による学生連携
  - ・現在、食育に関心がある先生の主導により、子どもたちを対象にした料理教室などを行っている

**【地域を支える人材・コミュニティ】**

- 市内（小規模）をよく知り、普段から興味を持って欲しい
- 各リーダー的な方のつながりが欲しい
  - ・勉強会の企画・実施
  - ・キーマンを助ける人を見つける →キーマン同士をつなげる →広げる
- 働き世代が日常的に地域活動に参加しやすいシステムづくり
- 自分のことだけではなく、隣の人や周囲の人に関心を向けられる市民を育てる

**【多世代交流・地域資源の発信】**

- 生涯教育、世代交流…古くからの弘前文化（食、方言、歴史、経験）の継承による弘前愛をもち、弘前の魅力を発信すれば、内外問わずに弘前へ惹かれ、定住人口増加
  - ・イベントなどでの
  - ・SNS の活用

**第4回市民会議(ワークショップ) とりまとめシート**  
**市民、地域、民間事業者等が主体となって取り組むべきこと・課題**

**「くらしづくり」グループ**

**【定住】**

○定住率を高める

- ・若者を地元（地域）に残るようにする（Uターン）
- ・若者は弘前の良さを知らない⇒良さを知ってもらうことが必要⇒子どもたちは歴史等の施設見学が学校であるが興味を持つ時期とマッチングしていない。
- ・ネックとして雇用・就労がある（働く場所、募集・採用の機会が少ない）

**【教育】**

○親の教育が必要

- ・子どものしつけができていない
- ・親自身の問題も大きい
- ・学校がPTAとの関係の強化が必要

○「子どもたちの人権が守られ、心豊かで健やかに成長できるまち」の実現に向けて、地域で行われる催しなどに積極的に参画させて、社会との関わりを体験させる

- ・子どもの社会教育として地域の「祭り」などを活用し、社会との関わりを高め深める必要がある
- ・子どもが地域に参画できるよう、脆弱化してきている地域コミュニティを強化していく必要がある

**【歴史・文化】**

○「歴史や伝統を尊重し、市民文化が創造されるまち」の実現に向けて、ふるさとの祭り・文化が市民に充実を与える

- ・「ねふた」はまちの大切な伝統であり、子どもたちの社会教育となっている
- ・歴史や文化を通じた教育ができる環境が必要である

**【防犯・交通安全】**

○超高齢社会が予想される20年後の社会では、高齢者の安心・安全な生活を守るため、市民相互の見回りなど必要である。交通安全母の会では、高齢者の事故被害当事者が多いことから、戸別訪問をしている。他の方々と協力して、さらに訪問戸数を増やしていきたいと思う。また、母の会の会員数の増加にも力を入れたい

- ・母の会だけでは高齢者の戸別訪問は限界があり、警察等他機関との連携を強化していく必要がある
- ・母の会のコアメンバーは50人弱であり、会員を増やしていくことが必要である
- ・個別訪問は、見守りの学習の場（機会）になる

**第4回市民会議(ワークショップ) とりまとめシート**  
**市民、地域、民間事業者等が主体となって取り組むべきこと・課題**

**「なりわいづくり」グループ**

**【観光】**

- 観光業強化のために、英会話可能なガイドを育成していくため、弘前大学留学生を巻き込み、市役所と関連企業が連携し、育成講座を開く
- 観光客のニーズに合わせたおもてなし（コース、インターネット、ことば）
- ガイドが経済的に（半）自立できるシステム
- 人の呼び込み（活性化）の為に新しい祭り（絵馬めぐり）を作っていく
  - ・絵馬研究会を3年前に立ち上げた
- 街の活性化のために観光事業者等は、的（コンセプト）をしぼったイベントの展開
  - ・イベントが多すぎるイメージ

**<観光×農業・食>**

- 異業種を組み合わせた商品をつくるためのシステムの構築
  - ・プロジューズの情報収集
- 観光の強化に他業種も連携すること
- 煮干しラーメン文化推進のために市内のラーメン店の横の連携体制を作り、観光業事業者とPR（新たな観光資源）

**【農業】**

- 農業の後継者不足のために市や地域住民が婚活に力を入れる
- 農地再利用のために、農家、市、JAなどは、米、林檎にかわる主役を作る
- 市のイメージでもある林檎産業は天候に脆いので、林檎を利用した上で新たな産業を作る
- 農業活性化のために、農家や市は新しいブランドをつくる
- 嶽キミのように新しいブランドを立ち上げる
  - ・先日枝豆王者決定戦・・・それを機会に人も集まる

**【業種横断】**

- 市民に種々の職業・産業が抱える問題を周知してもらうための機会を作る
- 賃金・労働力を有効に回す為にそれぞれの職業で補える点を確認する
- 民間事業者の連携による6次産業化

**第4回市民会議(ワークショップ) とりまとめシート**  
**市民、地域、民間事業者等が主体となって取り組むべきこと・課題**

**「まちづくり」グループ**

**【低炭素型・災害に強いまちづくり】**

- 日本を代表する「低炭素社会の街」
  - ・LEDの普及
  - ・学校への電気自動車の導入
  - ・祭り等のイベントのカーボンオフセットの推進
- 既存公共交通を活かす
  - ・コンパクトシティの推進
  - ・バスの利便性の向上
  - ・災害に強く、環境に配慮したエコタウンの実現

**【循環型社会の実現】**

- 「グリーンパトロール隊」の導入
  - ・不法投棄の監視（ボランティアの写メールによる監視・高齢者の見守りにも役立つ）
  - ・ごみの分別の種類を以前の10分類に戻す
  - ・リサイクル意識の向上

**【ハード面・ソフト面の防災機能の強化】**

- 各地域に公園等の集まる場所の整備
  - ・雪捨て場として活用
  - ・地域活動の実施場所として活用
  - ・ショッピングセンターと連携して駐車場を活用（PRにも役立つ）
- 災害に強いまち・市民の積極的な助け合いの促進
  - ・行政が縦割りで対応が遅い
  - ・市民の助け合いを積極的にPR

**【雪対策の充実】**

- 安原の道路の拡幅
  - ・昨年の大雪の際に、自動車が雪で埋まってしまい、動けなかった

**【観光客に優しい交通の実現】**

- 市民による小路散策の楽しさのPR
- 外国語による交通標識の整備
- 市民による産直マップのPR
  - （弘前市は道路が狭い）
  - （函館市は観光客に優しい）
- 未使用の古い建物・土地の利用
  - ・観光資源として活用
  - ・犯罪の防止にも役立つ